

第4次秋田市食育推進計画（素案） 【概要版】

第1章 基本的な考え方

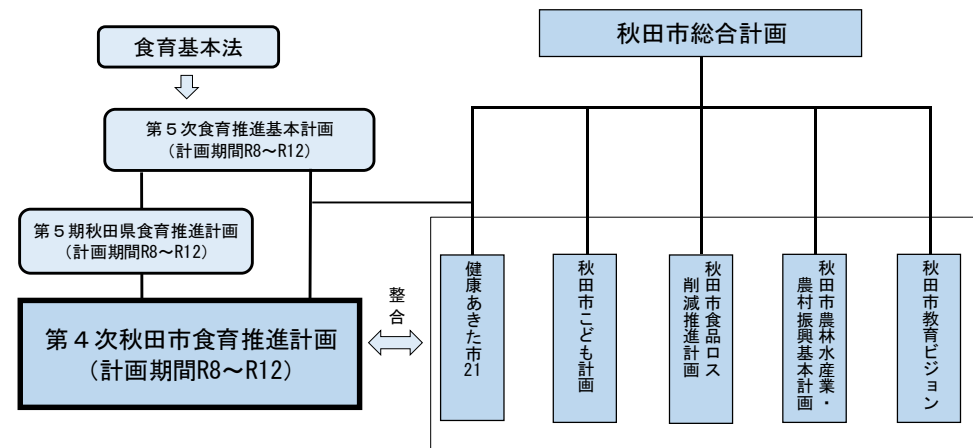
▶計画策定の趣旨

本市では、平成24年3月に「元気なあきたは食事から」を基本理念とする「秋田市食育推進計画」を策定し、これまで家庭や地域、教育・保育施設、小中学校、生産者等と連携して食育の推進に取り組んできた。

現在の第3次計画の計画期間が令和7年度で終了することから、これまでの推進の成果や課題等を踏まえ、令和8年度を初年度とする第4次計画を策定するものである。

▶計画の位置付け

- ・食育基本法第18条に基づく「市町村食育推進計画」
- ・「秋田市総合計画」の個別計画として位置付けるとともに、本市関連計画との整合性を図る。



▶基本理念

元気なあきたは食事から
～食を通じて健康な心と体をはくぐもう～

▶計画期間

令和8年度から12年度までの5年間

第2章 食育の現状と第3次計画の成果

▶食育の現状



<秋田市> 豊かな自然に囲まれ、新鮮な農産物・水産物等を食材として豊かな食生活を実現できる環境に恵まれている

ライフスタイルの多様化、核家族や共働き世帯の増加などに伴う課題



- ・朝食の欠食、野菜摂取量の減少、肥満の増加
- ・食品廃棄や食品の安全性への不安
- ・「共食」の機会の減少、郷土料理などの食文化が継承されにくい状況

▶第3次計画の成果

基本方針	指標	計画策定時	目標値(最終年次)	実績値(最新)	評価
(1) 健康な心身をつくろう	肥満傾向にある子どもの割合(小学生:肥満度20%以上) ※関連計画:健康あきた市21	8.8% (R元年度)	減少傾向	10.7% (R6年度)	△
(2) 食を体験しよう	都市農村交流人口 ※農業体験交流など、都市農村交流イベントの参加者数 ※関連計画:秋田市農林水産業・農村振興基本計画	2,389人 (R元年度)	3,000人	2,617人 (R6年度)	○
(3) 地域の食文化を学ぼう	学校給食に使用する市内産農産加工品の品目数	7品目 (R2年度)	15品目	4品目 (R6年度)	△
(4) 食の安全について知ろう	アレルギーわいわいだんぎの参加者の満足度 ※食物アレルギー児を持つ保護者に情報交換や仲間づくりの場を提供する講座のアンケート	100% (R2年度)	100%	100% (R7年度)	◎
(5) 食育を広げよう	市立小・中学校で食育に関わる学校訪問の実施回数 ※関連計画:秋田市教育ビジョン	6校 (R元年度)	12校	11校 (R6年度)	○

【評価の判定】

評価	判定
◎	目標として設定した状態を達成しているもの
○	目標に向けて改善がみられたが、目標として設定した状態には至らなかったもの
△	改善がみられなかったもの

第3章 第4次計画の取組

▶基本方針

基本理念を実現するため、次に掲げる4つの基本方針を設定し、具体的な取組を実施する。

1 食を通じた健康づくりの推進

- ・子どもから高齢者まで、生涯を通じた健全な食生活の実践を目指す
- ・大学や企業等と連携を図り、食への関心を高める「大人の食育」を推進する
- ・食の安全の維持向上を目指す

2 基本的な食習慣の形成と定着

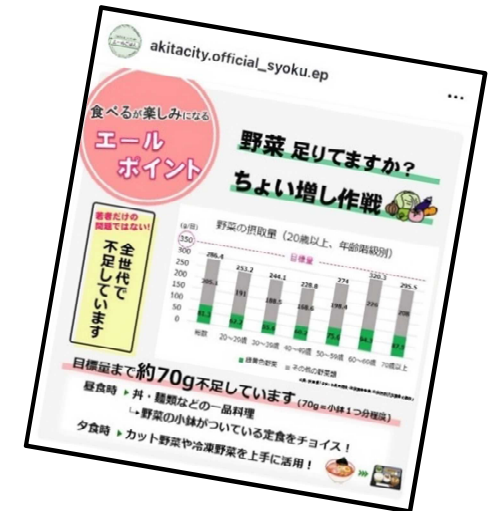
- ・学校、家庭、地域の連携・協力により、親子で食を学ぶことができる様々な活動を促進し、基本的な食習慣の形成と定着を目指す

3 食に関する実践活動の促進

- ・農産物の収穫や地元食材を使った料理体験などを通じ、食への関心を高める
- ・生産者や食品関連事業者と市民が交流する機会の充実を図り、感謝の気持ちをなくむとともに、食品ロスは「もったいない」という意識の醸成を目指す

4 地域の食と食文化への理解促進

- ・学校給食に市内産農産物を使用し、地元食材を活用した地域の食と食文化の理解促進を図る
- ・地域の高齢者などを通じて、家庭や地域で受け継がれてきた家庭料理や郷土料理などの食文化について、学ぶ機会の充実を図る



S N S等のデジタルツールを活用し、市民等に向けて効果的な情報発信も行う



第3章 第4次計画の取組

▶数値目標

計画を推進するにあたり、基本方針に沿って8つの指標を設定し、目標の達成に向けて進行管理と評価を行う。

基本方針1 食を通じた健康づくりの推進

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
肥満傾向にある子どもの割合 (10歳(小学5年生):肥満度20%以上)	13.1%	13.0%

[学校保健統計報告書] ※関連計画:健康あきた市21

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている 市民の割合 (20歳以上)	64.0%	83.2%

[秋田県「健康づくりに関する調査(秋田市分)」]

基本方針2 基本的な食習慣の形成と定着

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
小学生における朝食の摂取率 (小学6年生)	85.6%	88.0%

[全国学力・学習状況調査]

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
1日1回はみんなで食事をする割合 (子育て世代)	99.0%	100%

[3歳児健康診査アンケート] ※関連計画:秋田市こども計画

基本方針3 食に関する実践活動の促進

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
農業や料理体験をした市民の数 (援農ボランティア、さとびあ講座(農業・食体験関連)の参加者数)	2,203人	2,332人

[産業企画課調べ]

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
卸売市場開放イベントの売上実績	86,722千円	前年度比 プラス

[公設地方卸売市場調べ]

基本方針4 地域の食と食文化への理解促進

指標	現況(R6年度)	目標(R12年度)
学校給食への市内産農産物の使用率	6.8%	10.0%

[産業企画課調べ] ※関連計画:秋田市農林水産業・農村振興基本計画

指標	現況(R7年度)	目標(R12年度)
地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や食文化を市民に伝える 取組の開催回数	5回	10回

[事業実施関係課所室調べ]

第4章 ライフステージに応じた取組の視点

▶ライフステージ別の主なポイントと取組の視点

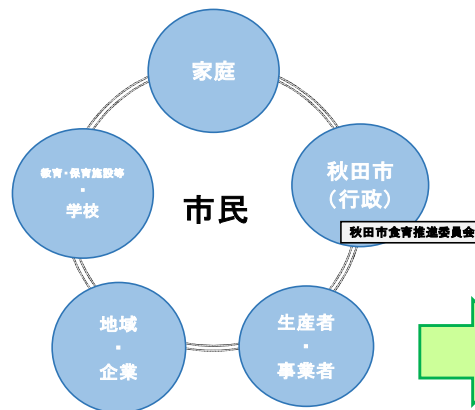
各ライフステージ【妊娠期、乳幼児期（0～5歳）、学童・思春期（6～18歳）、成人期（19～64歳）、高齢期（65歳以上）】の特徴や、市民に取り組んでいただきたい食育の視点を紹介

ライフステージ	取組の視点	ライフステージ	取組の視点
妊娠期	・バランスのよい食事をする ・妊娠中の体重増加は、お母さんと赤ちゃんにとって望ましい量にする など	成人期	・主食・主菜・副菜を組み合わせ、野菜は350g以上、果物は毎日200g程度食べる ・うす味を心がけ、減塩に取り組む など
乳幼児期	・生活リズムを整え、規則正しく食事やおやつをとる ・調理体験や栽培体験などにより、食に関わる体験を積み重ねる など	高齢期	・1日3食しっかり食べるとともに、いろいろな食品を食べる ・家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理や食文化を次世代に伝える など
学童・思春期	・自分の適正体重を知り、維持する ・毎日、朝食を含め3食規則正しく食べる など		

第5章 計画の推進

▶計画の推進体制

市民自ら主体的に食育を実践できるよう、家庭、教育・保育施設等、学校、地域、企業、生産者、食品関連事業者、秋田市（行政）が互いに連携・協力しながら食育を推進する。



▶計画の進捗管理

- ・食育に取り組む関係課所室が毎年度の取組状況や指標の達成状況等を把握し、課題等を分析する。
- ・「秋田市食育推進委員会」において、PDCAサイクルに基づく評価や見直しを行い、適切な進捗管理に努める。

▶食育を推進する場と期待する役割

市民が社会生活を営む様々な場において、食育の観点から期待する役割を紹介